減災社会へ向けて

日本の知恵 世界で共有

中越の経験は貴重な情報

全世界では自然災害によって毎年約一億六千万人が被災し、約十万人の命が奪われているという。新潟県は、中越大震災、中越沖地震の際に世界中から支援を受けたが、自然災害が多発する傾向にある中で、世界の防災・減災に新潟県は何ができるのか、また何をなすべきか。最前線で活躍する田尻直人内閣府参事官と、CODEスタッフの吉椿雅道さんに聞いた。

防災への「気づき」促す

防災という点では、日本は先進諸国の中でやや特殊な位置にあります。アメリカでは時々地震やハリケーンが発生しますが、ヨーロッパでは地震も台風もまれです。人道的な点から災害発生時の救援や物資の支援活動は活発ですが、災害の予防などの取り組みへの関心は、これまで日本に比べて高いとは言えない状況にあったと思います。

防災は経験をもとに対策や技術を改善していく性格が強い。わが国では毎年のように自然災害が発生しており、防災に関する知見や情報、技術が集積しています。また、国民の間には災害予防の重要性について共通の認識が根付いています。それだけに災害予防の重要性や復旧・復興のノウハウなどを、世界に発信・リードする責務と役割を担っています。

もう一つ見逃せないのは、アジア地域は地理的条件から地震や風水害などの自然災害が多いことです。世界の災害死者数の六割近くがアジアです。

日本にはアジアの一員として、生命を守る防災・減災についての国際協力や貢献が期待されています。

こうしたことから日本政府は国際防災協力を提唱し、国連や各国と連携しながら推進しています。九四年に第一回国連防災世界会議を横浜で開催、阪神・淡路大震災を経た八八年にはアジア防災センターを神戸に設立し、二〇〇五年には第二回会議を神戸で開催しました。

第二回会議は、スマトラ島沖大地震とインド洋大津波が発生した直後に開催され、国際的にも防災が大きな関心を呼び起こしました。会議では、国際社会における十年間の防災活動の指針となる「兵庫行動枠組2005―2015」を採択。災害被害の軽減に向けた平時の取り組み（＝防災）の重要性を確認し、各国が災害に強い国づくりやコミュニティーづくりに取り組むことを定めました。また、まちをそのために知識や技術の共有や国際協力を推進することにも合意しました。日本はこれに基づく知見や仕組みづくりについて情報提供ができるよう、日本のそうじょ（総合政策局）などを通じて、ODAを通じた支援などを通じて、国際防災協力のプロジェクトを進めています。

同じアジア地域でも、災害や復興に対する備えや意識は国によってさまざまです。日本では当たり前の、建築基準や災害対応マニュアルなどが整っていない国もあり、日本の情報や制度などを紹介しながら、防災への「気づき」を促しています。それは防災という文化を紹介していることなのかもしれません。防災訓練や真剣さ、基づく知見や仕組みづくりについて情報提供ができるよう、日本のそうじょ（総合政策局）などを通じて、ODAを通じた支援などを通じて、国際防災協力のプロジェクトを進めています。

四川大地震からの復興の経験は、国際的にも大きな意義を持つものと言えるでしょう。

国際防災協力は政府だけの活動ではありません。NGO（非政府組織）や自治体、住民などいろいろな主体が、防災に関する情報を世界に発信し、新潟県や中越地域に関しても、日本は経験に基づく知見や仕組みづくりについて情報提供ができるよう、日本のそうじょ（総合政策局）などを通じて、ODAを通じた支援などを通じて、国際防災協力のプロジェクトを進めています。

◆近年の主な自然災害（2004～2008、日本を除く）

2004年12月	インドネシア・スマトラ沖大地震・インド洋津波	死者・行方不明者23万人
2005年 8月	米国・ハリケーン「カトリーナ」	死者・行方不明者5,336人
10月	パキスタン等大地震	死者74,651人、負傷者76,000人
2006年 5月	インドネシア・ジャワ島中部地震	死者5,778人
12月	フィリピン・台風「ドリアン」	死者・行方不明者1,496人
2007年11月	バングラデシュ・サイクロン「シドル」	死者・行方不明者4,234人
2008年 5月	ミャンマー・サイクロン「ナルギス」	死者84,000人以上、行方不明者53,000人以上
5月	中国・四川大地震（汶川地震）	死者69,226人、行方不明者17,923人

（内閣府資料）

たじり・なおと　内閣府参事官・災害予防・広報・国際防災推進担当。建設省（現国土交通省）に入省後、住宅局、総合政策局などを経て現職。1994年から4年間新潟県への出向経験もある。

被災者に寄り添い支援

よしつぼき・まさみち　CODE海外災害援助市民センタースタッフ。阪神・淡路大震災を契機に被災地支援にかかわり、中越地震、スマトラ島沖地震、ジャワ島地震、四川大地震でも被災地で復旧・復興活動を支援。現在も中国で活動を続けている。

私が所属しているCODE―海外災害援助市民センターは、阪神・淡路大震災の際に約七十カ国から支援をいただいたお返しとして生まれたNGO（非政府組織）です。

海外の被災地の人々に対して、「困った時はお互いさま」という思いを持つ市民が集まって災害救援や復興支援を行っています。

救援・救命やインフラの復旧活動に必要な人手や資金は莫大なため、政府などの組織的な国際協力が有効です。私たちが取り組んでいるのは主に復興の支援です。

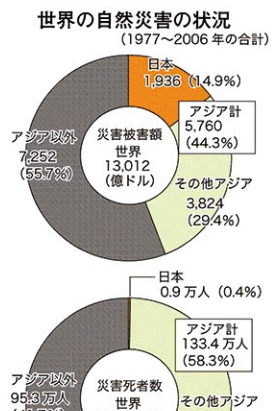
四川大地震では、支援の行き届かない被災地に入っていき、被災者と一緒にがれきを片付け、一緒ため息をつくことで、時間をかけて顔見知りになり、話をする関係を築きます。そこから一緒に生活や地域の明日を考え、専門家を紹介したり、支援ネットワークを通じて必要なものを調達したりするなどの支援活動を展開しています。

同じ自然災害でも被災状況は地域によって異なるため、必要な支援も復興の方向性も違っています。

しかし日本に限らず政府や行政には平等性や平等性が求められますが、どうしても行政による支援の網からこぼれる地域や集落がでてきます。そこを補完するのが、私たちのようなNGOや民間支援の役割です。

四川大地震・北川県香泉郷の村での支援活動（吉椿雅道氏提供）

世界の自然災害の状況（1977～2006年の合計）



（内閣府資料を基に作成）

四川大地震・四川省都江堰市の被害（吉椿雅道氏提供）

復興を進めるのは私たちではありません。被災地の皆さんが気力を取り戻し、自ら動き出さなければ復興は始まりません。被災した家や田畑を前に、立ち尽くしている被災者の皆さんに寄り添いながら、いろいろな話を聞きながら背中を押す。それがCODEの方法論です。

話をすることやがれきの片付けなど体を動かすことで、被災者の皆さんは目に見えて元気になっていきます。話の中には復興のヒントがたくさんあります。伝統的な住宅構法は地震に強い住宅再建のような、作物や伝統文化・ライフスタイルは復興活動の資源となります。

情報の共有も重要であり、成功事例は周りを刺激し復興活動を活発化しますが、カバーできない地域や領域で、被災者に寄り添えは問題解決の第一歩となります。課題を共有することで、行政による新しい動きが始まります。行政の例に関しても、日本は経験を越えていくのだと実感しました。

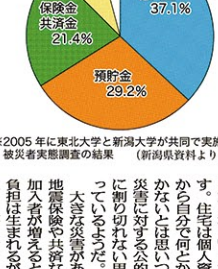
保険と耐震化 備えを

災害と住宅再建 〈2〉

中越地震

全壊世帯の再建 9割が自己資金

◆住宅再建資金の原資内訳



※2005年に東北大学と新潟大学が共同で実施した被災者実態調査の結果　（新潟県資料より作成）

二千八百万円（持ち家住宅の建築費、新潟県試算）もの住宅再建費用をどう工面するか。

中越大震災で住宅が全壊した世帯の例では、再建資金の九割前後は自己資金。国や県からの支援金もあるが、高齢のために親子リレー返済ローンの利用を余儀なくされ、子供に負債を残したくなかったと思う。

二重ローンを抱えた世帯は地震に強くなっている。中越大震災でも、大きな被害を受けた地域は、いながら継続的な支援を行うことは四川で行ったことと同じです。これが民間による国際被災地連携の一つの姿だと思います。

四川の被災地もまだ復興が始まったばかりですが、昨年六月に岩手・宮城内陸地震が発生した時から失敗した、という事例に関する情報も伝えていかなければと最近感じています。

人と人、人と情報が出会い、つながることが大切です。

阪神・淡路や中越で経験した、これが民間にも有効でした。しかし国情の違いからうまく活用できない情報や知恵もあり、一方的な押し付けになってはいけません。日本はこんなことをやったから失敗した、という事例の四川の被災地の中から「日本にボランティアに行こう」という声があがりました。被災地を応援する絆のネットワークは、こうして国境を越えていくのだと実感しました。

援があって助かった。しかし住宅は…。保険金もう証言もある。古い住宅は、耐震補強工事を行うことで強度は高くなる。耐震住宅は地震保険などの加入者が増えるという。負担は生まれるが、各家庭が災害に備える上でやはり考えたい取り組みの一つ。

地震保険や共済などの加入、大きな災害があると、災害に対する公的な支援に割り切れない思いも残っているようだ。

のは八十年以前に建てられた住宅に多かったとの証言もある。古い住宅は、個人資産、だから自分で何とかするしかないとは思いつつも、災害に対する公的な支援に割り切れない思いも残っているようだ。

保険や共済への加入、そして住宅の耐震化。自分たちの家や生活を守り、万が一の災害に備えるためには、こうした自助努力が必要だ。

耐震補強工事を行うことで強度は高くなる。耐震住宅は地震保険などの加入者が増えるという。負担は生まれるが、各家庭が災害に備える上でやはり考えたい取り組み

「社団法人　中越防災安全推進機構　復興デザインセンター」のサイトに、Web版「新潟　防災ジャーナル」が公開されています。
このサイトは、中越地震・中越沖地震からの復興に取り組む皆さんの情報発信の場として、コミュニケーションの場として活用頂けるよう運営しています。
ホームページアドレス　http://fukkou-design.jp

中越イベント情報

長岡市

■山古志　山野草探訪ツアー
【日時】4月12日（日）9:00～正午、申込締め切りは4月8日（水）
【集合場所】小松倉　中山隧道前駐車場
【内容】絵はがきサイズの用紙にスケッチをしながら山野草をめぐるツアー。用紙、画板はこちらで用意。持ち物は昼食、飲み物、タオル、色鉛筆、雨具、手袋、カメラ（希望者）。服装は長そで、長ズボン、帽子、トレッキングシューズまたは山登り用の靴。参加費500円、定員20人
【問い合わせ】復興支援センター山古志サテライト　025 8(59)2301

■諏訪神社春季大祭大名行列
【日時】4月29日（祝）
【会場】栃尾市街地
【内容】総勢600人の大名行列が市街地を巡り、諏訪神社に戻るとみこし、太鼓などの「舞い込み」が始まり、勇壮な祭りの最後を締めくくる
【問い合わせ】栃尾観光協会　0258(51)1195

■小国町森光集落「田舎体験イベント」山菜採り体験ツアー
【日時】4月29日（祝）10:00～、申込締め切りは4月19日（日）
【集合場所】森光担い手生産組合事務所前集合
【内容】旬の山菜を収穫し、天ぷらにして食べる。3000円（昼食費込み・子ども半額）
※履きなれた長靴があると便利。手袋も忘れずに
【問い合わせ】森光担い手生産組合　電話0258(41)9288、ファクス0258(41)9277

■第1回山古志の「牛の角突き」
【日時】5月4日（祝）13:00～（開場10:00）
【会場】山古志闘牛場（池谷）
※運動靴など動きやすい靴で。レジャー用シートなど、座席代わりになる敷物を持参のこと
【問い合わせ】長岡市山古志支所産業課　0258(59)2343

小千谷市

■おぢや桜祭り
【日時】4月6日（月）～5月8日（金）
【会場】小千谷市千谷工業団地、船岡山周辺
【内容】船岡公園でのぼんぼり点灯や桜のライトアップをはじめ、4月12日（日）には、千谷工業団地内でキャラクターショーや、ちびっこ広場などを開催。詳細は小千谷観光協会ホームページhttp://www.ojiyakanko.com
【問い合わせ】小千谷観光協会　0258(83)3512

■開館20周年記念　錦鯉の里春まつり
【日時】4月26日（日）
【会場】錦鯉の里
【内容】錦鯉の里開館20周年を記念。当日は農産物販売（8:30～）、つきたてもちの振る舞い（11:00と12:00）など。錦鯉の里無料開放、立て鯉の展示観賞会、1匹200円程度の鯉販売、農産物販売なども実施
【問い合わせ】小千谷市錦鯉の里　0258(83)2233

■第22回信濃川河岸段丘ウオーク
【日時】4月29日（水）昭和の日
【会場】JR津南駅前～小千谷市総合産業会館サンプラザ
【内容】50*o、42・195*o、25*o、23*o、15*o、12*oの6コース。大会当日も参加を受け付け
【問い合わせ】信濃川河岸段丘ウオーク実行委員会（総合体育館内）　電話0258(83)0077、ファクス0258(83)0078

川口町

■よってけ亭　ふれあい市
【日時】4月19日（日）10:00～14:00
【会場】東川口商店街よってけ亭前
【内容】毎月第3日曜日に開催。山菜も販売
【問い合わせ】本町通り復興活性化委員会　0258(89)2079（代表・内藤さん）

南魚沼市

■ガイドと行く南魚沼市の花「カタクリ」鑑賞トレッキング！
【日時】4月11日～5月4日の土・日・祝日
【会場】南魚沼市坂戸山、飯綱山、六万騎山、八海山の周辺観光スポット
【内容】南魚沼市は春の1カ月間、カタクリの花の大群生を気軽に楽しめる全国でも珍しい地域。市内4カ所のカタクリ群生地の中から、地元ガイドが一番美しく咲いている所に案内
【そのほか】参加希望日2日前までに申し込む。カタクリ開花時期は天候などの状況により変化。参加費は当日徴収。各回定員30人になり次第締め切り
【問い合わせ】六日町観光協会　電話025(770)1173、ファクス025(770)1183

魚沼市

■うおぬま里山花巡りトレッキング
【日時】4月11日（土）、12日（日）、18日（土）、19日（日）、25日（土）、26日（日）、29日（祝）、5月2日（土）、3日（日）、4日（祝）、5日（祝）、6日（水）。出発10:00、13:00
【集合場所】奥只見郷インフォメーションセンター（道の駅ゆのたに内）
【内容】魚沼の里山に咲く山野草を地元ガイドが案内。約2時間の散策。散策に適した服装、靴を用意
【そのほか】出発時間5分前までに集合。10人以下の利用は申し込み不要。※4人以上で催行（10人以上で利用の際は要予約）
【問い合わせ】魚沼市観光協会　電話025(792)7300、ファクス025(792)7200

十日町市

■野口水ばしょうまつり
【日時】4月中旬～下旬の日曜日
【会場】十日町市野口水ばしょう公園
【内容】数千株の水ばしょうが人々の目を楽しませる。地酒や水ばしょう汁の振る舞いもあり
【問い合わせ】十日町市役所川西支所地域振興課商工観光係　025(768)4951

〈次号案内〉
次号第11号は、5月4日（月）に発行します。2004年の中越地震で奇跡的な救出劇のあった長岡市妙見町のルポや、地盤災害についての記事を掲載する予定です。